

「恋人は欲しくない」「恋愛は面倒」……でも「(恋愛)結婚はしたい」?!

少子化対策と若者の“大いなる矛盾”を、歴史学、脳科学、行動経済学等から解明した問題作

書籍『**恋愛結婚の終焉** (しゅうえん)』 / 牛窪 恵・著

9月13日、光文社新書より発売予定

お世話になります。来たる9月13日、弊社代表で、世代・トレンド評論家(立教大学大学院・客員教授)の牛窪 恵氏による著書『恋愛結婚の終焉(しゅうえん)』(光文社新書)が発売されます。

今回、2年がかりで企画からご一緒したのは、出版プロデューサーの干場 弓子氏(現:干場弓子事務所代表)です。彼女は、ディスカヴァー・トゥエンティワンの社長時代に『婚活時代』(山田昌弘・白河桃子共著)ほか、大ベストセラーの編集やヒットに数多く関わったことで知られています。

牛窪氏と干場氏は、2015年出版の『恋愛しない若者たち』(ディスカヴァー携書)が、発売直後から7万部弱まで重版を重ねるなか、「今も若者の大半が、『恋愛結婚』をイメージするのに、『恋愛が面倒』だとなれば、未婚化・少子化にも拍車がかかる」と、予測していました。今まさに、その事態が起きています。

今年、岸田内閣は「異次元の少子化対策(のちに文言を変更)」を打ち出しましたが、そもそも「恋愛が面倒」であれば、「(恋愛)結婚」は増えません。

一方、牛窪氏は「草食系(男子)」を世に広める2年前(06年)から、大手企業と若者研究を継続し、彼らが「恋愛は面倒」「でも結婚はしたい」と考えていることに気づいていました。21年の大規模調査(※次頁)も、それを裏付けます。



(全 304p / 1,034 円(税込))

「それなら、恋愛と結婚を切り離し、結婚相手に『恋愛力』を求めることをやめよう」……それが本書の主旨です。

本書で深く考察する通り、「恋愛と結婚(と性(出産))」を一体化して考える「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」には、半世紀程度の歴史しかありません。それどころか、恋愛と結婚は、歴史学や脳科学、進化人類学、行動経済学など、様々な分野からみても、もともと、「混ぜるなキケン(水と油)」であったのです。

いまの若者たちが求める「共創結婚」を実現するために、国や自治体、民間企業、そして彼ら自身は、どのような発想転換や後押しをすべきなのか。最終章ではそのための24の提言も掲げました。ぜひご一読ください。

<取材及びコメントにご協力頂いた方々(一部)> ※順不動

中央大学・山田昌弘教授、関西大学・谷本奈穂教授、大阪大学・安田洋祐教授、浜松医科大学・針山孝彦教授、早稲田大学・池田清彦名誉教授、武蔵野大学・澤口俊之教授、IT評論家・尾原和啓氏、ジャーナリスト・浜田敬子氏、エンタメ社会学者・中山淳雄氏、戦略コンサル・西口敦氏、メディアプロデューサー・小林隆子氏 他

本件へのお問合せは…

◆インフィニティ堀越、大岡まで◆ mail: info@hachinoji.com 電話:03-5927-9800

第1章 なぜ「恋愛」「結婚」しないのか —もはや「贅沢品」？ 少子化対策に欠けている視点

◆「結婚しない(できない)」の正体 =キーマンはZ世代の親世代「団塊ジュニア」

生涯未婚率上昇はいつから？／男女の異なる姿／「上昇婚志向」の理由／奨学金という大きな負債 ほか

◆「恋愛しない(できない)」の正体 =恋愛さえ「贅沢品」だとするZ世代のリアル

リアル恋愛は「コスパが悪い」／キスもセックスも「女子先行」／SNSによる怯え／「押し」という恋愛代替 ほか

第2章 ロマンティック・ラブ幻想史 —恋愛・結婚・性が“無理やり”結びついた、歴史的背景

◆欧米で誕生した「ロマンティック・ラブ」 =騎士道・宮廷恋愛と「キリスト教」、産業革命

恋愛とセックスは別物だった／恋愛の地位を高めたロマン主義／三位一体化の理由と「女性解放」 ほか

◆日本の「ロマンティック・ラブ幻想史」 =古代～江戸時代／明治・大正時代／昭和の劇的変化

性に大らかだった日本／夜這い、婿入りから「嫁入り」婚へ／江戸の大独身・離婚大国を変えたもの ほか

第3章 恋愛常識の落とし穴 —生物学(脳科学・進化人類学)の視点から

◆愛はなぜ冷めるのか =脳科学による「恋愛3年説」の真相

恋愛と結婚は「混ぜるなキケン」／恋が暴走する理由／タチが悪いPEA／続くカップルはなにが違うのか ほか

◆人類の進化とパートナー選び =一夫一婦制が築かれた理由

二足歩行とプレゼント仮説／メスがオスを選ぶ視点／「ニセ発情」と平和社会／人類が争いをやめるには ほか

第4章 恋愛結婚とコスト —行動経済学の視点から

◆婚活の落とし穴 =なぜマッチングアプリでの出会いが増えても、婚姻率が上がらないのか？

選択のパラドックスと二重過程理論／認知バイアスとドレイクの法則／GSアルゴリズムで「皆で幸せに？」 ほか

◆「ただ一人」の相手を見つけるために =法則を駆使して「運命の出会い」を科学する

運命を逃さない「最適停止理論」／「盛る」と出会い確率は下がる？／返報性の法則と告白する利点 ほか

第5章 経済格差の壁と社会通念の壁 —「共創結婚」に向けた24の提言

◆「経済格差」の壁を超える =昭和の制度を見直せ！

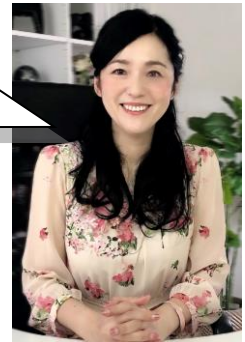
奨学金が返せない、生理用品やスマホが買えない、学びの時間が取れない、女性も「低年収・非正規だから結婚できない」、親が支えてくれないと大損する……親世代の想像を遥かに超えた、若者たちの苦悩と知恵

◆「社会通念」の壁を超える =昭和の常識を取り去れ！

同棲・事実婚のリアル／LGBT(Q)と同性婚への願いと提言／企業・自治体が「卵子凍結」助成に動き出した理由／海外の精子バンクにアクセスする女性たち／男性も、家事・育児を「手伝う」では結婚できない ほか

先の国の第三者機関の調査(※)では、若い世代(18~34歳)の**97%の女性が、男性に「昭和の女性」の役割**(家事・育児能力や姿勢)を、**48%の男性が、女性に「昭和の男性」の役割**(経済力)をそれぞれ求めています。もはや、かつての恋愛イメージの延長線上に「結婚」はありません(牛窪氏)

※2021年 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」



<著者・牛窪 恵氏 プロフィール>

世代・トレンド評論家。立教大学大学院客員教授。経営管理学 修士。インフィニティ代表取締役。大手出版社を退職後、01年4月にマーケティング会社を起業。企業各社との商品・サービス開発に取り組み、「おひとりさま」「草食系」「年の差婚」などの言葉を世に広め、話題となる。テレビのコメンテーターとしても活躍中